

2023 年度:こども園自己評価の報告書

服部こども園

評価項目	取り組み状況
教育・保育方針と内容	・豊中市の基本理念である「人とつながり生きる力の基礎を培う」の一つとして、園内研究テーマを「遊びを通して、思いを表現する力・人とのかかわる力を育む～子ども理解から違いを認めあえる力を育むために」とし、一人一人の個性を尊重した教育保育の取り組みを進めていった。 ・「子どもの見方」を学び子ども理解をすすめていくことで保育力を高めていく。また、気になる子ども達の発達理解や支援方法を学ぶことで、違いを認めあい、思いを表現する力、人とのかかわる力を育めるよう子ども達の育ちに返していった。
健康支援	・保健師が保健年間計画を立て、クラスにおいて「命の安全教育」や身体の話などその都度保健指導を行ってきた。 ・毎月の保健日よりで保健行事や感染症について情報発信を行った。特に感染症流行時には速やかに情報を伝え、園と家庭が協力して予防に取り組めるようにした。 ・事務所前のスペースでは三色食品群等について保健コーナーを作り、保護者と子どもで楽しみながら知ることができた。 ・地域事業のびよびよ、わんわんに参加した地域の保護者が、相談をしやすい雰囲気をつくっていった。
安全指導・危機管理	・危険な場所、遊具の使い方、遊びの約束を年度初めに全職員で確認することで子どもにとって安全な対応を行った。 ・当番制で毎月職員が安全点検、アレルギー対応点検を行い、危険と判断されるところは修繕改善を行った。 ・防災（火災・地震・洪水）・防犯（不審者侵入）の避難訓練を実施。洪水の際は隣のマンションに避難するための訓練を行った（玄関前まで）。また、南消防署より水消火器を貸し出してもらい、職員が実際に使用する訓練を行った。 ・南警察署による交通安全指導を行った。
食育の推進	・技能員とクラスが連携をして、給食食材の下準備の手伝いや菜園活動で収穫した野菜を料理して友達と食べるという食に関わる体験をした。 ・園庭が狭く限られたスペースの中で、プランター等で工夫しながら菜園活動を行っている。自分たちが育てた野菜ということで食に興味を持てる食育活動につながっている。
子育て支援	・保護者とは日々の何気ない会話ややり取りの中で信頼関係を築き、いつもと様子が違う時なども園の職員から声掛けを行い、話を聞き、子育てに悩みや不安がある保護者には適宜に面談を持ち、話を聴くようにしてきた。 ・地域支援員と連携をし、地域と各クラスがびよびよ、わんわん等で年齢別交流を深めてきた。在園児は交流する中で、褒められることが自信につながっていった。また地域の方にも子どもの成長していく姿やこども園の良さを実感していただけた。次年度も子どもの現状からクラスがねらいを持ち、交流を考えていく。 ・1・2歳の育ちの講座で、クラスの子どもの姿を通して年齢の特徴や子どもは一人一人違うという話を担任が行った。具体的な子どもの姿を伝えることや親同士が話をする中で、保護者の安心につながった。 ・技能職員は離乳食講座や、おやつ講座などの食育を通して質問や相談を受け地域と関わった。

インクルーシブ教育保育	・保護者の意向を聞きながら作成した『個別の支援計画』をもとに、『個別の指導計画』を立て実践した。課題や支援の方法について出し合い、個々の子どもの特性をふまえ、集団の中での育ち合いを大切に考え教育保育を進めた。 ・年長児の保護者とは就学に向けての話をを行った。また、丁寧な関りが必要と思われる児については、児童発達支援センター等と連携を行い、保護者と共に課題を共有し考えていった。
職員の資質の向上	・アドバイザー研修で学んだことをクラスの現状に合わせて教育保育の取り組みに活かしていくようにした。 ・人権研修では、同和保育や同僚性の大切さについて、改めて学ぶ機会を持った。また、『教育保育環境ガイドライン』や『人権擁護のためのセルフチェック』を用いて自分の保育の振り返りを行った。
幼保こ小中の連携	・幼保こ小連絡会を通して、情報交換を行った。また、支援を要する子どもの様子を就学先の小学校と情報共有し、必要な手だてについて連携を図った。 ・今年度再開した体験入学に小学校に出向き交流を行い、子どもたちの就学への期待へとつなげていった。
評議員会	・年3回の評議員会を持ち、このうち一回は生活発表会予行練習を観ていただいた。こども園で大事にしている教育保育を感じていただき、この時期の教育保育の大切さや地域の子どもたちを取り巻く現状、地域の資源、連携における課題等について話し合った。
その他	・玄関掲示板に行事の取り組みの様子を幼児期までに育ってほしい 10の姿と結びつけてドキュメンテーションにし、教育保育の中で大事にしていることを伝えていった。

○今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

課 題	具体的な取り組み方法
教育保育の充実と保護者への伝え方の工夫	・公開保育の内容を検討し、『教育保育環境ガイドライン』の活用もすすめていきながら、保護者にはより伝わりやすいようにドキュメンテーションの掲示や配信アプリでの発信も考えていく。
職員の資質の向上	・自分の教育、保育や適切な言葉かけや関りについて『教育・保育ガイドライン』や『公立こども園自己評価表』等を活用して、自己課題に気づき考えていく。

令和6年（2024年）3月31日

豊中市立服部こども園

園長名 伊永 香織